

Web アンケートに基づく保育所選択におけるミスマッチの実態分析

増喜浩太郎*・沖拓弥**・下村隼生***

Analysis of Mismatch in Nursery Choice Based on Web-based Questionnaire

Kotaro MASUKI, Takuya OKI, Toshiki SHIMOMURA

Although the number of children on the waiting list for nursery is gradually getting smaller, not all parents can leave their child(ren) in the nursery they prefer. In addition, while some nurseries gather more applicants than their capacities, on the other hand, some nurseries are under-enrollment. In this paper, we report the results of a web-based questionnaire survey we conducted to understand the reality of "mismatches" quantitatively from the viewpoint of the nursery choice behavior of applicants. In the survey, we asked respondents who applied to nursery admissions in recent years the following points: (i) From what point of view they choose a nursery to apply; and (ii) What amount of the ideals and application situations of applicants are satisfied by actual circumstances of nursery admissions. Based on these points, we propose some indices which describe the mismatch of commuting situations of nurseries, and we indicate their actual circumstances.

Keywords: 保育所 (nursery school), 待機児童 (child on the waiting list for nursery school), Web アンケート (Web-based questionnaire), 施設選択 (facility choice), 送迎行動 (pick-up and drop-off behavior), ミスマッチ (mismatch)

1. はじめに

近年、少子化が進む中でも核家族や共働き世帯は増加し、保育所への入所を希望する世帯も増加傾向にある（厚生労働省，2021）。保育所の新設や定員拡充が進んだ現在では、多くの自治体において待機児童数は減少傾向にあるものの（厚生労働省，2020），必ずしも各世帯にとって望ましい保育所に入所できているとは限らない（厚生労働省，2016）。特に都市部では、特定の保育所に入所希望者が集中して入所待ち児童が多数発生している一方で、入所希望者が集まらず定員割れとなっている保育所も存在する（厚生労働省，2021）。

筆者らは、こうした保育所入所に関する「ミスマッチ」を、保育所利用者の視点から定量的に把握することを目的として、保育所の選択と利用行動に関する Web アンケートを実施した。本稿では、Web アンケートによって得られた回答をも

とに、(1) 保育所利用者がどのような観点で入所を希望する保育所を選択したのか、(2) 実際の入所選考結果は、利用者の理想や申請状況をどの程度満たしているのか、という点について分析を行う。さらに、これらの観点に基づく保育所通園ミスマッチ指標を提案し、その実態を示す。

2. 保育所の選択と利用行動に関する Web アンケート

アンケートの実施概要を表 1 に、回答項目の一覧を表 2 にそれぞれ示す。本アンケートでは主に、保育所利用者の施設選択行動を詳細に把握するため、入所希望段階で理想とした保育所（第 2 希望まで：以下【希望 1】【希望 2】）、自治体に提出する入所申請書類に記入した保育所（第 3 希望まで：以下【申請 1】【申請 2】【申請 3】）、および実際に入所できた保育所（以下【実際】）について、それぞれの具体的な名称（Q5）や選択

* 学生会員 東京工業大学環境・社会理工学院 (Tokyo Institute of Technology)
〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1 E-mail: masuki.k.aa@m.titech.ac.jp
** 正会員 東京工業大学環境・社会理工学院 (Tokyo Institute of Technology)
*** 学生会員 東京工業大学環境・社会理工学院 (Tokyo Institute of Technology)

表1 Web アンケート調査の概要

名称	保育所の選択と利用行動に関するアンケート		
調査地域	日本全国		
調査時期	2020年9月18日～2020年9月23日		
調査対象	2015年6月～2020年9月の期間内に保育所を利用していた、あるいはこの期間内で保育所への入所申請を行ったが利用できなかった保護者		
調査手法	Web アンケート（実施は株式会社マクロミルに委託）		
調査人数	株式会社マクロミルのモニター会員 1,032名		
回答対象の割付	回答群	保育所利用経験	回答対象の子ども
	A群	あり	子ども1人（一人っ子）
	B群	あり	子ども2人以上（最年長の子）
	C群	あり	子ども2人以上（最年少の子）
	D群	なし（入所不可）	最年長の子（一人っ子も含む）
	E群	なし（入所不可）	最年少の子（一人っ子も含む）
			サンプル数
			258名 / 1,032名
			258名 / 1,032名
			258名 / 1,032名
			129名 / 1,032名
			129名 / 1,032名

表2 Web アンケート調査の設問

番号	設問内容	詳細
Q1	保育所利用開始時点（D群・E群は回答時点）での子どもの年齢	表4
Q2	保育所探しを始めてから実際に保育所を利用開始するまで（D群・E群は回答時点まで）の期間	図1
Q3	実際に保育所の利用を開始した時期	図2
Q4	(1) 理想的な通園時間 および (2) 許容できる通園時間の上限（徒歩・自転車・自家用車・送迎バスそれぞれについて回答）	図4
Q5	・入所を希望していた保育所（第2希望まで：希望1,2）, ・実際に入所申請書に記入した保育所（第3希望まで：申請1,2,3）, ・実際に入所した保育所（実際）の施設名称をそれぞれ記入（該当しない項目は無記入）	4章
Q6	Q5で回答した保育所を選択した理由（それぞれ）	図3
Q7	Q5で回答した保育所を利用する場合に想定される主な交通手段	4章
Q8	Q5で回答した保育所を利用する場合に想定される通園時間	4章
Q9	保育所を選択する際の、施設種別の優先順位	表8
Q10	保育所を選択する際の、保育所選択理由の優先順位	表7
Q11	保育所への送迎者（朝（送り）と夕方（迎え）それぞれ回答）	表9
Q12	送迎時の主な移動手段	図5
Q13	送迎時の自宅・保育所・勤務地の出発・到着時刻（朝・夕）	
Q14	自宅から保育所までの移動距離・直線距離	
Q15	（子どもから見た）両親の年齢	表4
Q16	（子どもから見た）両親の就業形態	表5
Q17	同居している家族の人数（回答対象の子どもと両親を除く）	表6
Q18	居住地および両親の勤務先 / 通学先（丁目以降は記入しない）	

※その他の基本情報として、回答者ID、回答日時、性別、年齢、都道府県、地域、未婚 / 既婚、世帯年収、個人年収、職業等に関する情報も得ている。

表3 都道府県別の回答者数

都道府県	回答数	回答割合	人口割合	都道府県	回答数	回答割合	人口割合	都道府県	回答数	回答割合	人口割合
北海道	39	3.8%	4.2%	石川県	9	0.9%	0.9%	岡山県	25	2.4%	1.5%
青森県	7	0.7%	1.0%	福井県	5	0.5%	0.6%	広島県	19	1.8%	2.2%
岩手県	4	0.4%	1.0%	山梨県	6	0.6%	0.6%	山口県	13	1.3%	1.1%
宮城県	22	2.1%	1.8%	長野県	15	1.5%	1.6%	徳島県	9	0.9%	0.6%
秋田県	10	1.0%	0.8%	岐阜県	21	2.0%	1.6%	香川県	10	1.0%	0.8%
山形県	11	1.1%	0.9%	静岡県	27	2.6%	2.9%	愛媛県	6	0.6%	1.1%
福島県	6	0.6%	1.5%	愛知県	84	8.1%	6.0%	高知県	11	1.1%	0.6%
茨城県	14	1.4%	2.3%	三重県	23	2.2%	1.4%	福岡県	44	4.3%	4.0%
栃木県	11	1.1%	1.5%	滋賀県	10	1.0%	1.1%	佐賀県	7	0.7%	0.6%
群馬県	10	1.0%	1.5%	京都府	23	2.2%	2.0%	長崎県	11	1.1%	1.1%
埼玉県	52	5.0%	5.8%	大阪府	82	7.9%	7.0%	熊本県	6	0.6%	1.4%
千葉県	56	5.4%	5.0%	兵庫県	42	4.1%	4.3%	大分県	6	0.6%	0.9%
東京都	105	10.2%	11.0%	奈良県	10	1.0%	1.1%	宮崎県	6	0.6%	0.2%
神奈川県	78	7.6%	7.3%	和歌山県	9	0.9%	0.7%	鹿児島県	9	0.9%	1.3%
新潟県	26	2.5%	1.8%	鳥取県	7	0.7%	0.4%	沖縄県	12	1.2%	1.2%
富山県	8	0.8%	0.8%	島根県	6	0.6%	0.5%	全国合計	1,032	100.0%	100.0%

※値の大きな都道府県を赤色、値の小さな都道府県を青色で示している。

表4 子どもと保護者の年齢分布 (Q1)

(a) 子どもの年齢	年齢						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
回答数	164	208	137	168	82	88	1032
年齢構成比	15.9%	20.2%	13.3%	16.3%	7.9%	8.5%	100.0%

(b) 回答者（保護者）の年齢	年齢						合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	
回答数	0	93	524	340	75	0	1032
年齢構成比	0.0%	9.0%	50.8%	32.9%	7.3%	0.0%	100.0%

表5 （子どもから見た）両親の就業形態 (Q16)

	自営業主・家族従業員	正規の職員・従業員	派遣社員・契約社員等	パート・アルバイト	会社等の役員	その他	学生	専業主婦・主夫	無職	全体
母親	33 3.2%	395 38.5%	66 6.4%	355 34.6%	2 0.2%	5 0.5%	1 0.1%	165 16.1%	13 1.3%	1,027 100.0%
父親	52 5.2%	890 89.2%	23 2.3%	10 1.0%	14 1.4%	1 0.1%	0 0.0%	3 0.3%	9 0.9%	998 100.0%

表6 同居している家族の人数 (Q17)

(a) 兄弟姉妹および祖父母等の人数	人数							全体
	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上		
0-5歳の弟・妹（未就学児）	675 65.4%	315 30.5%	38 3.7%	3 0.3%	1 0.1%	0 0.0%	1032 100.0%	
0-5歳の兄・姉（未就学児）	796 77.1%	217 21.0%	12 1.2%	5 0.5%	2 0.2%	0 0.0%	1032 100.0%	
6歳以上の兄・姉（就学児以上）	702 68.0%	225 21.8%	92 8.9%	11 1.1%	2 0.2%	0 0.0%	1032 100.0%	
祖父母など・その他	763 73.9%	58 5.6%	117 11.3%	37 3.6%	52 5.0%	5 0.5%	1032 100.0%	

(b) 世帯人数（回答対象の子どもと両親も含む合計人数）	人数										全体
	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人以上	
回答数	7	282	295	203	104	69	39	17	8	8	1032
回答割合	0.7%	27.3%	28.6%	19.7%	10.1%	6.7%	3.8%	1.6%	0.8%	0.8%	100.0%

理由 (Q6) , 交通手段 (Q7) , 通園時間 (Q8) を尋ねている点に特徴がある。また、実際の送迎行動に関する設問 (Q11 ~ Q13) や、居住地・勤務地に関する設問 (Q14, Q18) も設けている。さらに、入所申請を行ったが実際には保育所を利用できなかった保護者 (表1のD・E群) の意見も収集している。

3. Web アンケートの集計結果

3.1. 基本情報

表3に、都道府県ごとの回答者数と、全回答者数 (1,032名) に占める回答者数の比率 (回答割合) , および全国の総人口 (総務省統計局, 2021) に占める人口比率 (人口割合) を示す。東京都, 愛知県, 大阪府などの総人口が多い都道府県で回答数が多く集まる傾向がみられた。

回答対象となる子どもの年齢分布を見ると、保

育需要が特に大きい1歳児の割合が最も高く、保育需要が比較的小さい4-5歳児の割合は比較的低い (表4(a))。回答者 (保護者) 自身の年齢分布は、子育て世代の中心となる30-40代が多い (表4(b))。

表5に、子供から見た母親・父親の就業形態の回答結果を示す。母親の就業形態は正規の職員・従業員とパート・アルバイトが概ね同程度を占め、次いで専業主婦の割合が高い。これに対して、父親の就業形態は正規の職員・従業員が大多数を占めている。

表6では、回答者の世帯について、兄弟姉妹および祖父母等の人数 (表6(a)) および世帯人数 (表6(b)) を示す。世帯人数が3-5人の世帯が約75%を占めるが、6人以上の大人世帯も多く見られた。

3.2. 入所時期・期間

図1に、保育所への入所の検討を開始してか

ら、実際に入所するまでの期間の分布を示す。保育所利用を検討し始めた時点ですぐに入所できたのは10%前後に留まっている。多くの回答者は1年以内に入所開始できているものの、入所までに数年単位を要しているケースも見受けられる。

保育所の利用開始時期については、年度始めの4月頃に入所する割合が他の時期と比べて極めて高く、その傾向は年度によらず一定である¹⁾ことがわかる(図2)。

3.3. 選択理由

【希望1】【希望2】【申請1】【申請2】【申請3】【実際】のそれぞれの保育所に対する選択理由の回答結果を図3に示す。保育所選択の要因として通園利便性(選択肢4)が最も多く挙げられ、志望度の低い保育所ほど、その割合が下がる傾向が見られる。次いで、地元での評判の良さ(選択肢2)や開所時間等の都合の良さ(選択肢5)なども重要視されていることがわかる。また、選択肢以外には、回答対象の子どもの兄・姉が通っているという回答(自由記述)が非常に多く見られた。

図3で示した選択理由の優先度を比較するため、回答者ごとに保育所選択理由とその選択優先

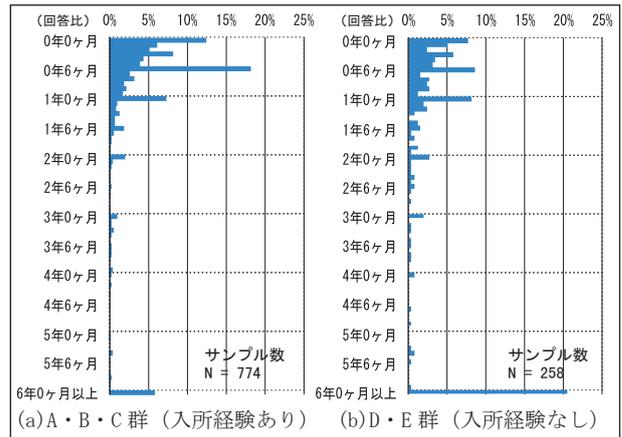


図1 入所検討→入所開始までの期間(Q2)

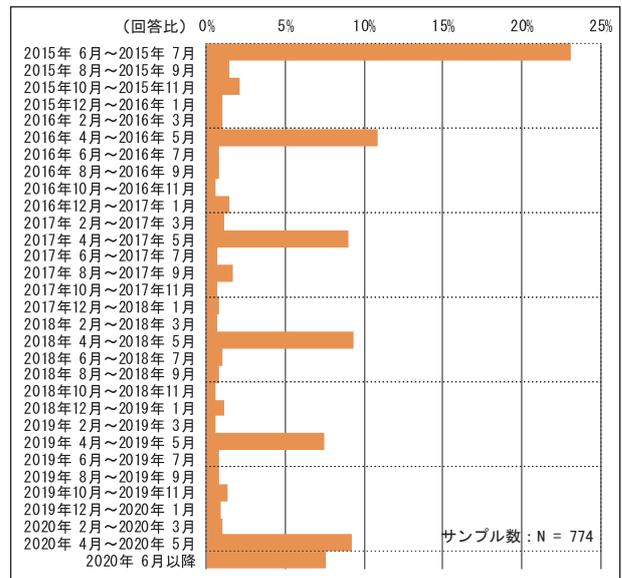


図2 保育所の利用開始時期(Q3)

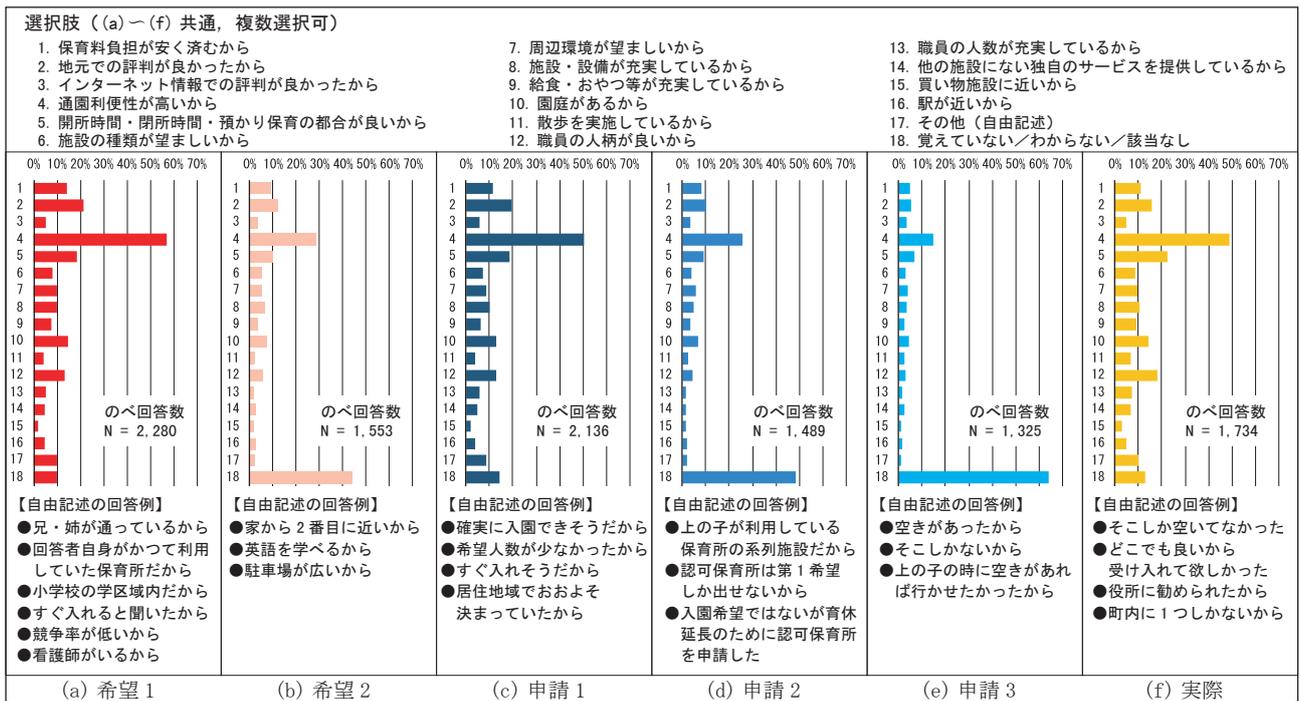


図3 保育所の選択理由(Q6)

表7 保育所選択理由と選択優先度のクロス表 (Q10)

保育所選択理由	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	14位	15位	16位	17位	選択理由合計
1 保育料負担が安く済むから	223	84	44	25	21	22	17	20	10	12	21	12	14	17	11	25	11	589
2 地元での評判が良かったから	125	89	52	37	32	26	27	16	19	20	12	14	25	6	20	12	4	536
3 インターネット情報での評判が良かったから	25	38	37	30	25	26	20	19	30	15	21	25	23	34	26	22	7	423
4 通園利便性が高いから	356	163	65	44	23	24	18	13	10	6	12	7	8	6	4	3	1	763
5 開所時間・閉所時間・預かり保育の都合が良いから	87	148	84	51	51	29	24	21	19	15	9	18	5	10	2	2	4	579
6 施設の種類の望ましいから	15	28	56	48	44	59	43	32	25	34	29	19	19	8	6	3	1	469
7 周辺環境が望ましいから	16	52	64	55	52	35	56	35	38	33	22	21	7	5	2	2	0	495
8 施設・設備が充実しているから	20	47	62	53	54	39	40	75	35	36	18	14	16	4	1	1	0	515
9 給食・おやつ等が充実しているから	11	26	37	38	31	30	27	39	80	33	31	35	22	15	7	5	0	467
10 園庭があるから	11	40	72	41	45	44	42	29	26	61	34	19	17	8	7	7	1	504
11 散歩を実施しているから	3	8	19	17	24	23	28	27	28	36	66	41	46	27	21	9	0	423
12 職員の人柄が良いから	36	51	67	63	50	34	30	23	28	24	30	56	20	17	5	3	1	538
13 職員の人数が充実しているから	5	30	28	36	37	33	33	28	31	27	25	36	69	25	18	6	1	468
14 他の施設にない独自のサービスを提供しているから	10	21	25	18	18	18	8	20	14	24	28	36	37	110	34	22	4	447
15 買い物施設に近いから	2	9	15	10	8	11	19	11	10	10	14	22	24	45	143	46	3	402
16 駅が近いから	7	14	17	21	10	17	6	8	8	15	15	9	25	24	47	154	21	418
17 その他	13	7	5	8	6	5	3	3	0	1	4	3	2	10	9	32	220	331
順位合計	965	855	749	595	531	475	441	419	411	402	391	387	379	371	363	354	279	8367

度の関係をクロス表に集計した(表7)。通園利便性(選択肢4)を選択優先度の1位とする回答者が最も多く、次いで保育料負担の安さ(選択肢1)や地元での評判の良さ(選択肢2)が選択優先度の上位にきている。一方で、買物施設への近さ(選択肢15)や駅への近さ(選択肢16)は優選択優先度としては下位であった。

表8では、保育所の施設種別に関する優先度を、表7と同様にクロス表に集計した。施設種別のうち、東京都認証保育所および横浜保育室は利用可能である地域が限定されるため、これらの保育所種別を順位回答を含む回答者を分離し、それぞれでクロス集計を行った。全体に共通の傾向として、認可保育所の優先度が最も高く、その中でも公立の保育所が私立よりも好まれているという結果が示された。次いで、小規模保育施設や認定こども園が優先される傾向がやや見られた。東京都認証保育所や横浜保育室は、利用可能地域の回答者であっても選択の優先順位は下位であり、これらの施設種別が保育所供給において補完的な役割であることと対応している。

3.4. 通園・送迎

保育所への通園時間に対して利用者が感じる抵抗度合いを定量化するため、理想および許容上限となる通園時間を移動手段別に調査し、既報(増喜・沖, 2020)と同様の抵抗関数を設定して、回答結果に基づきパラメータを推定した(図4)。

いずれの移動手段においても既往のアンケート調査(河端, 2010)の結果と概ね同様となり、実

表8 保育所の施設種別と選択優先度のクロス表 (Q9)

(a) 東京都認証保育所を選択肢を含む回答者																		
施設種別	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	合計						
公立認可保育所	54	25	7	0	2	1	0	0	0	0	2	91						
私立認可保育所	35	30	4	2	0	1	2	0	2	2	1	79						
小規模保育施設	3	6	19	4	2	5	5	3	2	5	1	55						
家庭的保育施設	3	1	3	8	6	2	4	1	9	5	5	47						
事業所内保育所	0	2	1	2	9	6	2	6	8	5	3	44						
企業主導型保育所	0	2	1	4	2	6	6	8	3	3	7	42						
認定こども園(幼保連携型)	3	8	9	10	7	4	9	4	0	0	1	55						
認定こども園(幼稚園型)	2	4	6	8	10	6	1	6	7	1	1	52						
認定こども園(保育所型)	1	0	10	12	9	5	3	4	6	5	0	55						
認定こども園(地方裁量型)	0	0	1	1	2	4	6	5	3	12	7	41						
東京都認証保育所	4	7	12	2	1	3	3	4	1	3	13	53						
合計	105	85	73	53	50	43	41	41	41	41	41	614						

(b) 横浜保育室を選択肢を含む回答者																		
施設種別	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	合計						
公立認可保育所	16	8	1	3	4	2	2	0	0	0	1	37						
私立認可保育所	10	14	4	3	1	3	1	0	0	1	1	38						
小規模保育施設	4	3	14	4	3	1	1	1	1	1	0	33						
家庭的保育施設	2	2	2	9	4	2	1	2	4	1	2	31						
事業所内保育所	2	2	2	3	6	3	1	6	2	3	2	32						
企業主導型保育所	0	2	2	1	2	8	3	1	5	4	2	30						
認定こども園(幼保連携型)	4	4	4	5	3	1	9	2	0	0	1	33						
認定こども園(幼稚園型)	2	2	1	1	5	4	2	11	3	2	0	33						
認定こども園(保育所型)	1	1	4	2	2	6	4	0	12	0	0	32						
認定こども園(地方裁量型)	0	1	1	0	1	0	5	3	1	16	1	29						
横浜保育室	1	1	2	1	0	0	1	4	2	1	19	32						
合計	42	40	37	32	31	30	30	30	30	29	29	360						

(c) 東京都認証保育所・横浜保育室を選択肢に含まない回答者																		
施設種別	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	合計							
公立認可保育所	492	132	45	26	14	8	7	3	8	10	745							
私立認可保育所	161	243	59	39	28	25	11	8	11	20	605							
小規模保育施設	26	54	122	28	32	42	46	30	24	27	431							
家庭的保育施設	12	19	30	66	36	29	50	60	35	43	380							
事業所内保育所	10	24	23	35	2	35	42	49	72	17	309							
企業主導型保育所	8	10	25	29	34	73	50	46	35	62	372							
認定こども園(幼保連携型)	93	90	124	43	43	35	63	17	15	9	532							
認定こども園(幼稚園型)	42	43	51	69	53	34	34	69	37	19	451							
認定こども園(保育所型)	35	77	105	80	53	22	18	23	72	10	495							
認定こども園(地方裁量型)	6	8	11	31	33	61	27	39	33	118	367							
合計	885	700	595	446	328	364	348	344	342	335	8,780							

質的な通園限界時間は移動手段によらず30分程度であった。

次に、各回答者が実際に選択しうる保育所への通園を想定し、通園手段に関する回答を得た(図5(a))。このうち三大都市圏の都道府県の回答のみで集計すると、徒歩・自転車・自家用車の割合は概ね同等程度であるが(図5(b))、地方圏の都道府県の回答では、60%近くの回答者が自家用車による通園を行っていることがわかる(図

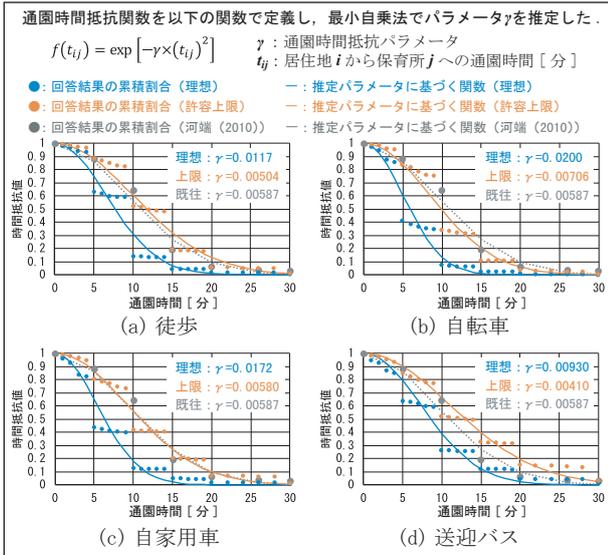


図4 通園時間の理想と許容上限 (Q4)

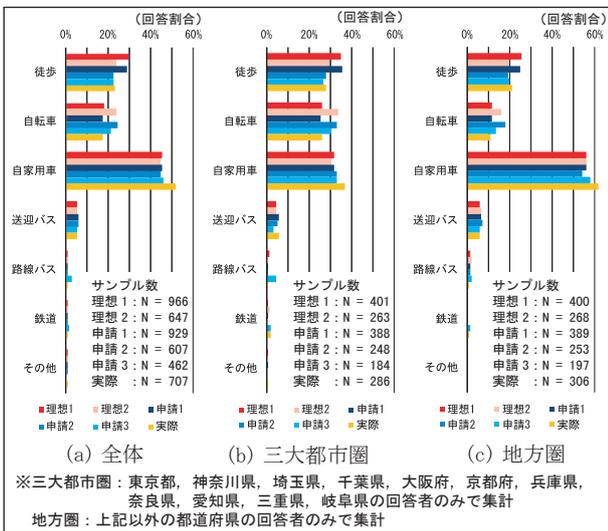


図5 保育所への想定通園手段 (Q7)

表9 子どもを送迎する人 (Q11)

	母親	父親	祖父	祖母	その他	合計
朝 (送り)	609 78.7%	125 16.1%	12 1.6%	12 1.6%	16 2.1%	774 100.0%
夕方 (迎え)	642 82.9%	64 8.3%	16 2.1%	37 4.8%	15 1.9%	774 100.0%

5(c))。また、三大都市圏・地方圏のいずれにおいても、保育所への通園手段として路線バスや鉄道を利用している割合はごく少数である。

表9では、朝 (送り) と夕方 (迎え) それぞれの送迎者の内訳を示す。母親が送迎するケースが父親の約5倍 (朝)、約10倍 (夕方) と圧倒的に多く、祖父・祖母などが送迎するケースも見られた。また、朝と夕方で送迎者が異なるケースは、774サンプル中177サンプル (22.3%) であった。

表10 保育所通園ミスマッチ評価指標

※保育所入所経験のあるA・B・C群の回答者ごとに指標①-④を算出する
 ※保育所*n*には、【希望1】【希望2】【申請1】【申請2】【申請3】【実際】のいずれかの保育所が入るものとする。

①施設一致度 $Nc(n_1, n_2)$	
定義	【希望1】【希望2】【申請1】【申請2】【申請3】【実際】の保育所の組み合わせ (n_1, n_2) が、どの程度一致しているかを表す指標
算出方法	Q5の回答として得た施設名称をもとに、一致 or 不一致を判定する
例	【希望1】: A 保育園, 【申請1】: A 保育園, 【実際】: B 保育園 の場合、 $Nc(\text{希望1}, \text{申請1}) = \text{「一致」}$, $Nc(\text{希望1}, \text{実際}) = \text{「不一致」}$
②選択理由一致度 $Rc(n_1, n_2)$	
定義	保育所 n_1 を選択した理由が、保育所 n_2 を選択した理由とどの程度一致しているかを表す指標
算出方法	Q6で回答した保育所選択理由 (複数回答あり、選択肢は図4参照) について、保育所 n_1 で該当する項目数のうち、保育所 n_2 でも該当する項目数の比率 (%)
例	【希望1】の保育所の選択理由: 1, 2, 3, 4, 5 【実際】の保育所の選択理由: 4, 5, 6, 7 の場合、選択理由 4, 5 が共通なので、 $Rc(\text{希望1}, \text{実際}) = 2 \text{ 項目} / 5 \text{ 項目} = 40\%$
③通園時間の差分 $\Delta t(n_1, n_2)$	
定義	保育所 n_1 への (想定) 通園時間 t_{n1} は、保育所 n_2 への (想定) 通園時間 t_{n2} と比較してどの程度長くなっているかを表す指標 $\Delta t(n_1, n_2) = t_{n1} - t_{n2}$
算出方法	Q8で回答した (想定) 通園時間をもとに算出 ※通園時間が $t_{n1} < t_{n2}$ の場合は $\Delta t(n_1, n_2) < 0$ となる
例	保育所 n_1 : 【実際】の保育所への想定通園時間 $t_{\text{実際}} = 5$ 分 保育所 n_2 : 【希望1】の保育所への通園時間 $t_{\text{希望1}} = 8$ 分 の場合、 $\Delta t(\text{実際}, \text{希望1}) = 8 \text{ 分} - 5 \text{ 分} = 3 \text{ 分}$
④通園時間の理想許容度 $\Delta T_{\text{理想}}(n)$, 上限許容度 $\Delta T_{\text{上限}}(n)$	
定義	保育所 n への (想定) 通園時間は、回答者が考える通園時間の理想や許容上限の範囲内に収まっているかを表す指標
算出方法	$T_{\text{理想}}$: 回答者が考える通園時間の理想 (Q4で回答) $T_{\text{上限}}$: 回答者が考える通園時間の許容上限 (Q4で回答) t_n : 保育所 n への (想定) 通園時間 のとき、 $\Delta T_{\text{理想}}(n) = T_{\text{理想}} - t_n$, $\Delta T_{\text{上限}}(n) = T_{\text{上限}} - t_n$
例	【希望1】の保育所への想定通園時間: $t_{\text{希望1}} = 1$ 分 【実際】の保育所への通園時間: $t_{\text{実際}} = 8$ 分 通園時間の理想: $T_{\text{理想}} = 3$ 分, 許容上限: $T_{\text{上限}} = 6$ 分 の場合、 $\Delta T_{\text{理想}}(\text{希望1}) = T_{\text{理想}} - t_{\text{希望1}} = 3 \text{ 分} - 1 \text{ 分} = 2 \text{ 分}$ $\Delta T_{\text{上限}}(\text{希望1}) = T_{\text{上限}} - t_{\text{希望1}} = 6 \text{ 分} - 1 \text{ 分} = 5 \text{ 分}$ $\Delta T_{\text{理想}}(\text{実際}) = T_{\text{理想}} - t_{\text{実際}} = 3 \text{ 分} - 8 \text{ 分} = -5 \text{ 分}$ $\Delta T_{\text{上限}}(\text{実際}) = T_{\text{上限}} - t_{\text{実際}} = 6 \text{ 分} - 8 \text{ 分} = -2 \text{ 分}$

4. 保育所選択ミスマッチ分析

4.1. 保育所選択ミスマッチ指標の構築

本稿では、Web アンケートの回答結果から算出可能な保育所選択ミスマッチの指標として、①施設一致度 $Nc(n_1, n_2)$ 、②選択理由一致度 $Rc(n_1, n_2)$ 、③通園時間の差分 $\Delta t(n_1, n_2)$ 、④通園時間の理想許容度 $\Delta T_{\text{理想}}(n)$ および上限許容度 $\Delta T_{\text{上限}}(n)$ の4つを提案する。各指標の定義と算出方法、および算出例を表10に示す。これ以後、これらの指標を用いて、【希望1】の保育所に入所できていた場合を基準として、【実際】の保育所に入所している現状との差分に着目する。

4.2. 保育所選択ミスマッチ指標の算出結果

表11に、回答者が記入したそれぞれの保育所の名称に基づく、【希望1】【希望2】【申請1】【申請2】【申請3】【実際】の施設一致度 $Nc(n_1, n_2)$

表 11 施設一致度 $Nc(n_1, n_2)$ の集計結果

	【希望 1】	【希望 2】	【申請 1】	【申請 2】	【申請 3】	【実際】	回答記入数
【希望 1】			33	801	44	33	517
【希望 2】	3.6%		62	390	39	108	514
【申請 1】	88.4%	12.1%		29	28	561	895
【申請 2】	4.9%	75.9%	3.2%		35	83	478
【申請 3】	3.6%	7.6%	3.1%	7.3%		43	307
【実際】	57.1%	21.0%	62.7%	17.4%	14.0%		712

上三角部分： $Nc(n_1, n_2)$ = 「一致」となる回答数、
下三角部分：その回答割合（値が大きいほど橙色，値が小さいほど青色）

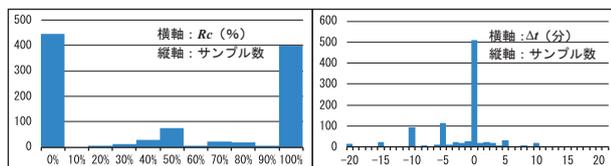


図 6 Rc (希望 1, 実際) の頻度分布

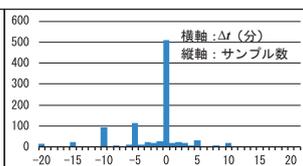


図 7 Δt (希望 1, 実際) の頻度分布

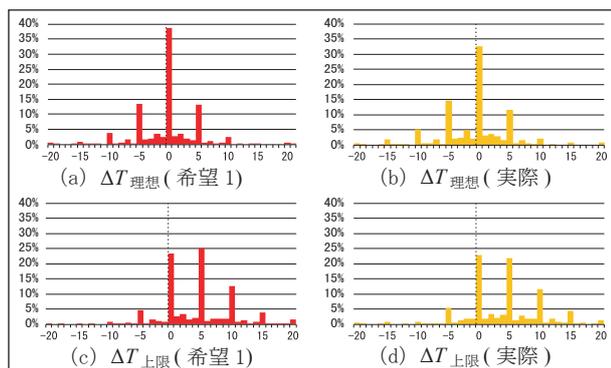


図 8 $\Delta T_{理想}(n), \Delta T_{上限}(n)$ の頻度分布

の集計結果を示す。【申請 1】に【希望 1】と同じ保育所を記入した回答者が 90% 近くを占めているが、【希望 1】と【実際】が一致している回答者は 60% を下回っている。すなわち、回答者の 40% 以上は、真に入所を希望していた保育所を利用できていないと言える。

②【希望 1】と【実際】における選択理由一致度 Rc (希望 1, 実際) の値は 0 および 1 に大きく偏在している (図 9)。すなわち、保育所の選択理由は【希望 1】と【実際】の保育所で完全に一致するか、全く合致しないケースのいずれかに二極化している。

③通園時間の差分 Δt (実際, 希望 1) の分布を見ると (図 7), Δt が 0, すなわち【希望 1】と【実際】の保育所で想定通園時間が同等である回答者が圧倒的に多いことがわかる。また, $\Delta t > 0$ となる回答者よりも $\Delta t < 0$, すなわち, 希望 1 が実際の保育所よりも遠いという回答者の方が多く見られた。これは, 保育所の選択要因として通園利便性が重要視されている (図 3 の選択肢 4) もの、必ずしも通園時間が最短となる保育所が選択され

ないケースが多いことを示唆している。

④通園時間の理想許容度 $\Delta T_{理想}(n)$ および上限許容度 $\Delta T_{上限}(n)$ について, 【希望 1】および【実際】の保育所それぞれでその分布を求めた (図 8)。 $\Delta T_{理想}$ (希望 1) (図 8(a)) および $\Delta T_{理想}$ (実際) (図 8(b)) の分布はいずれも 0 をピークに概ね左右対称に分布していることから, 回答者が考える理想の通園時間は【希望 1】や【実際】の保育所への通園時間の分布の平均に近いといえる。また, $\Delta T_{上限}$ (希望 1) (図 8(c)) の約 14%, $\Delta T_{上限}$ (実際) (図 8(d)) の約 11% の回答者は上限許容度の値が負となっている。これは, 通園時間の許容上限を超えており, 保育所通園の観点では大きなミスマッチが生じている可能性が高い。

4. まとめ

保育所利用者の施設選択行動に関する実態を把握するために Web アンケートを実施し, その回答結果を示した。また, 回答結果をもとに保育所選択ミスマッチ指標を算出し, 入所希望状況と実際の入所状況のミスマッチの現状を考察した。

謝辞

Web アンケートにご協力いただいた回答者各位に謝意を表します。

注釈

注 1) 2015 年 6 月～2015 年 7 月の回答数がそれ以降の期間の選択肢と比較して明らかに多いのは, Web アンケートで対象としている期間より前 (2015 年 6 月以前) に保育所を利用していた, あるいは入所申請を行った回答者がこの選択肢を回答しているためと推察される。

参考文献

- 河端瑞貴 (2010) 仕事と子育ての両立と保育所アクセスシビリティに関するアンケート調査報告書。「CSIS Discussion Paper」, 102.
厚生労働省 (2016) 「保活」の実態に関する調査の結果。(2021 年 8 月 28 日参照) <<https://www>

.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000126129.
html>

厚生労働省（2020）保育所等等関連状況取りまとめ。（2021年8月25日参照）<<https://www.mhlw.go.jp/content/11922000/000678692.pdf>>

厚生労働省（2021）保育を取り巻く状況について。（2021年8月25日参照）<<https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000784219.pdf>>

総務省統計局（2021）都道府県別人口と人口増減率。（2021年8月25日参照）<<https://www.stat.go.jp/data/nihon/02.html>>

増喜浩太郎・沖拓弥（2020）保育所入所状況データに基づく保育所選択行動分析。「地理情報システム学会講演論文集」， Vol. 29.